

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890200096		
法人名	社会福祉法人 光朔会		
事業所名	グループホームオリンピア篠原		
所在地	兵庫県神戸市灘区篠原本町3丁目2-4		
自己評価作成日	2020年1月20日	評価結果市町村受理日	2002年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H. R. コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	2020年2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

5年目を迎えたオリンピア篠原は「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、お一人おひとりの「その人らしさ」を大切に、これまで通りの尊厳ある生活を送るお手伝いをさせて頂いている。入居希望や、地域の方々の見学が多く、地域に根ざしたホームとなっている。日々の散歩やお買い物、美容院等地域で暮らし、生活することができている。また地域の行事に積極的に参加したり、地域の方々や児童館、こども園の子供達を迎えたりと交流も盛んに行っている。職員は正職、パート職ともスキルアップするための研修が受けられる。法人内では、初任者研修・スウェーデン研修等様々な研修を実施しており、各々の成長とケアの向上に繋げている。オリンピア創設から脈々と受け継がれてきた「イエス・キリストの愛と奉仕の精神」を遵守し、これからもより一層の飛躍を目指していく。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念を共有し、入居者一人ひとりが、「高齢になってもこれまで通りの生活を」地域とつながりながら継続できるように取り組んでいる。地域交流・地域貢献を深め、今年度は新たに「地域交流会」を開催し、今後も地域での役割を担えるように継続していくことを計画している。「理念」「3つの約束」の浸透、年間ビジョンの共有、研修体制、人事考課制度、随時のカンファレンス等、運営体制の整備・職員の資質向上に努めている。PDCAサイクルにもとづいた介護計画の見直しにより、「その人らしさ」を大切にされた個別支援に努め、「食」の楽しみ・家事作業・趣味活動・外出等を継続し活動的に過ごせるよう、家族と共に支える関係づくりに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「生活の主人公は利用者ご本人であり、今まで通りの生活を送るお手伝いをさせて頂くこと」を理念とし、その実現のために「3つの約束」を掲げ、各ユニットに掲示している。また、毎日の朝礼時、遅出、夜勤出勤時に唱和することにより、日々のケアの礎とし、共有・実践している。	オリンピアの「理念」と「3つの約束」を各ユニットに掲示し、毎日の朝礼時には、職員と入居者が一緒に唱和し、共有と職員の意識付けを図っている。遅出・夜勤の出勤時にも、職員が唱和を行っている。「理念」をすべての礎とし、カンファレンス等で検討する時も、理念に立ち戻り理念の実践につなげている。また、各ユニットで、理念をもとに年間ビジョン・毎月のユニット目標を設定し、理念の実践に向け、職員が参画して具体的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として自治体へ加入している。日々の外出や買い物、地域のお祭りなどの行事に積極的に参加したり、地域の方々をお迎えしたりとイベントを楽しんでいる。	自治会に加入し総会に出席し、自治会長・民生委員と連携している。散歩・買い物・理美容・外食・喫茶等で、日常的に地域に出かけ、敬老会・餅つき大会・ボランティアフェスティバルなど地域行事に参加している。児童館・こども園との交流の機会も毎月設けている。歌の会や演奏でボランティアの来訪があり、イベント時にも地域からの参加がある。今年度は、「地域交流会」を開催し、地域交流の新たな取り組みも始めた。地域からの介護相談に対応すると共に、入居者が依頼を受け地域に配布するチラシに色付けをする等、地域に貢献する活動を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々の見学はもちろん、入居者、元入居者のご家族のご紹介で、突然見学にいられた方に対しても、随時見学していただき、介護に関する相談や説明する時間を設けている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日々の様子が伝わりやすいように写真やDVD、実際に作った物を見て頂いて、入居者様の日常の様子やイベントの様子を報告している。また、参加者の意見や要望をお聞きし、普段の生活の中に活かせるよう取り組んでいる。	入居者・家族・あんしんすこやかセンター職員・自治会長・民生児童委員・行政書士(知見者)・法人理事長等を構成メンバーとし、2ヶ月に1回開催している。入居者は各ユニットから多数参加し、家族の参加も多い。会議では、「月刊オリンピア篠原」の写真を見ながら、2ヶ月間の入居者の生活の様子・行事・活動等を報告している。参加者一人ひとりに、自己紹介と発言をお願いし、意見・情報・提案等をサービスや運営に反映できるように取り組んでいる。議事録をホームページで公開し、開催内容は「月刊オリンピア篠原」にも掲載している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市担当者とは随時電話で情報交換を行っている。また、神戸市が開催する、集団指導や研修に積極的に参加し、日常業務に役立っている。あんしんすこやかセンター職員の運営推進会議の参加を通して、利用者の状況や事業所の取り組みを伝え、情報交換している。	運営推進会議にあんしんすこやかセンター職員の参加があり、入居者の状況や事業所の取り組み等を伝え、地域の情報を得て連携を図っている。神戸市が主催する集団指導や研修に参加し、事業所の運営に反映している。管理者が市役所・区役所・保健所と、随時電話や窓口で情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止の理念を全スタッフが共有するため、研修を実施している。また、玄関やエレベーターには日中鍵をかけず、自由に出入りができるようにしており、心理的な鍵もかけないように取り組んでいる。	法人として、行動を制限しない自由な生活を根本的な方針とし、身体拘束をしないケアの周知徹底を図っている。「身体拘束廃止に向けての指針」を整備し、「身体拘束廃止委員会」を設置している。委員会を3か月に1回開催し、行動制限しないリスクへの対応方法の検討や、スピーチロックについての注意喚起等を話し合っている。議事録は各ユニットで回覧し、職員の周知を図っている。法人の全体研修で「身体拘束廃止」の研修を実施し、カンファレンスで伝達、議事録と資料の閲覧で周知を図っている。ホーム内でも、拘束研修カンファレンスを実施している。ユニット・エレベーター・玄関は、日中は施錠を行っていない。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止を理念の根本とし、研修において定義や関連法、日々のケアについて学んでいる。また、日々のケアにおいて虐待に繋がりそうなことがないか注意しながら取り組んでいる。	高齢者虐待防止についても、法人の全体研修とカンファレンスでの伝達、議事録と資料の閲覧で周知を図っている。ホーム内では不適切ケアについてDVDで研修し、研修レポートを提出している。カンファレンスでも、言葉遣いや対応について具体的に検討し職員の意識向上に努めている。管理者・リーダーを中心に相談しやすい関係づくりに努め、新入職者には個別のトレーニングシートを作成して育成する等、職員の悩みやストレス等がケアに影響しないように取り組んでいる。	
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	神戸市主催のコンプライアンス研修による権利擁護の研修を受け、制度の概要、利用の仕方を学び、相談があった場合には速やかに支援ができるように関係機関との関係を作っている。現在成年後見制度を利用している方が2名おられる。	行政書士による権利擁護に関する制度についてのレクチャーを実施し、研修記録の回覧で周知を図っている。現在、2名の入居者が成年後見制度を利用し、後見人と連携し制度利用を支援している。法人として行政書士事務所と連携があり、今後も制度利用の必要性や家族等からの相談があれば、管理者が窓口となり対応する仕組みがある。	
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前には自宅訪問もしくは見学を兼ねて来所して頂き、契約に関することについて十分に時間を取り説明し、理解・納得して頂いた上で契約をしている。また、解約、改定等の際にも十分に時間を取りご説明させていただいている。	契約前の自宅等への訪問やホームの見学の際に、管理者が法人やホームの方針について説明している。ユニットリーダーも同席し、入居後の生活について具体的に説明し、家族からの質問を受け不安の解消に努めている。自由な暮らしを大切に法人の理念とリスク、重度化対応等については、特に詳細に説明し理解が得られるように努めている。契約時は契約書・重要事項説明書・各種同意書に沿って説明を行い、文書で同意を得ている。契約内容改定の際は、変更内容を明記した文書を作成し、面会時や電話で説明し文書で同意を得ている。契約の終了時には、法人内のバックアップ体制も活用し、円滑な移行ができるように支援している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族懇談会、ご家族来訪時や電話等で意見や要望をお聞きする機会を多く設けている。全職員がすぐに対応できるよう口頭での申し送りに加え、連絡ノートでの回覧により周知している。	家族の面会時、家族懇談会、ホーム内の行事や外出行事等の機会に、家族の意見や要望の把握に努めている。面会時には近況を報告し、「月刊オリンピア篠原」や個人アルバム等で生活の様子や活動への参加を伝え、家族が意見や要望を話しやすいように取り組んでいる。運営推進会議に入居者・家族の出席があり、ホームや外部の人に意見を表す機会を設けている。把握した意見や要望は、連絡ノート等で共有し、個別の対応に反映できるように取り組んでいる。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体として職員の意見やチャレンジを積極的に採用している。職員は日常的にリーダー、管理者に相談できる形がある。また紙面カンファレンスを定期的実施し、職員をフォローし応援、支援している。	月に数回、各ユニット、または、ユニット合同でカンファレンスを行い、管理者・ユニットリーダーが職員の意見・提案の把握に努めている。参加できなかった職員には、議事録の回覧で共有を図っている。書面カンファレンスやユニットラインで、意見・情報交換する仕組みもある。人事考課制度を導入し、リーダー面談、管理者面談、ホーム長面談を行い、職員が個別に意見を伝える機会を設けている。月1回のリーダー会議で理事長・ホーム長に職員の意見を伝える機会があり、また、日頃から誰でも話しやすい職場環境がある。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として自己評価、人事考課という評価制度を導入し、職員一人ひとりの目的や目標を明確にし、各々のチャレンジが評価に直結するよう制度化している。また、ユニットリーダーは定期的に個別面談を行っている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの経験、能力に合わせて、新人研修、リーダー育成研修、海外研修などの研修制度がある。また、現場ではそれぞれに必要なトレーニングシートを作成し、チームで協力して育てている。働きながら資格取得を目指す職員もいる。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症管理者研修などの外部研修に職員が参加し、外部との交流やネットワークを作っている。近隣施設の運営推進会議に参加し、お互いの試みや企画を情報交換し共有をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	「生活の主人公は利用者ご本人」という理念のもと、入居者様の立場に立って、入居前・入居時にご本人の思いをしっかりとお聴きし、安心して新生活が迎えられるよう配慮している。また、職員間で情報を共有し、信頼関係の構築が早く出来るよう準備している。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居までにご家族との面談や見学の場を設け、実際のケアを見ていただき、不安や要望などをお聴きし、把握している。ご家族の思いをしっかりと受け止め、信頼関係の構築の上、入居していただけるようにしている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族が置かれている状況を的確に把握し、その時に必要な支援を見極め提供している。また、他のサービスが必要な場合は、法人内で情報共有し、ご本人・ご家族にサービスの説明をしている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主人公は入居者様であり、職員は生活のお手伝いをさせていただくという理念のもと、お互いが支え合い、時には入居者様から生活の知恵などを教えて頂きながら、共に生活を送っている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今まで通りに誇りを持った生活を送って頂くという理念のもと、ご家族の協力が必要であることをお伝えし、今までの生活を教えて頂いている。また、行事等にはご家族の参加、ご協力をいただいている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの人生をしっかりと聴かせて頂いた上で、日々の外出や美容院、お買い物、定期的に教会に行かれるなど、入居後も継続されている。また、馴染みの方がいつでも来所していただけるよう配慮し、入居後も、今までのつながりを大切にしている。	家族記入の「生活歴シート」や、定期的に更新するセンター方式の「私の暮らし方シート」をもとに、馴染みの人や場所についての情報の把握に努めている。日々のコミュニケーションで把握した情報は、申し送りノートや「日記」で共有し、支援や活動等に反映している。家族・友人・知人など馴染みの人の来訪が多く、来訪時にはゆっくり過ごせるように配慮している。買い物・喫茶・外食・理美容・通院・教会礼拝など、個別やグループでの外出の機会に、馴染みの場所との関係継続に努めている。電話・手紙・年賀状でも、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、お互いが助け合い、支え合えるようお手伝いさせて頂いている。入居者様同士で相談し、作りあげていく生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス期間中に培った信頼関係を大切に、サービス利用終了後も、そのご家族や知人の方のサービスについて、相談を受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での会話や、表情など、少しの変化にも注意し、ご本人の希望や思いを汲み取るよう努めている。ご家族や、知人の協力も得て思いを汲み取るようにもしている。それらの情報は職員間で共有し、日々のケアに反映させるようにしている。	日々のコミュニケーションを大切にし、言葉・行動・表情の変化にも注意をはらい、思いや意向を汲み取るよう努めている。把握が困難な場合は、家族や知人からの情報も参考にしている。日々のコミュニケーションで把握した思いや意向は「連絡ノート」「紙面カンファレンス」を活用して情報共有し、日々の支援・介護計画・外出企画等に反映している。「私の基本情報」「心身の情報」を定期的に更新し、情報の蓄積と新しい情報の把握に努めている。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	「今まで通りの生活」を大切にするため、ご本人(センター方式によるアセスメント)、ご家族(入居時生活歴シート)から情報収集を行っている。これらを基に、生活スタイルの把握に努めている。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、お一人おひとりの生活状況・心身状況など新しい発見、些細な変化も正確に把握できるよう努めている。また、全職員が申し送りノートを活用し情報を共有している。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を確認し、日々の生活の中での様々な情報、主治医の意見も組み込んだカンファレンス、モニタリングを行っている。3ヶ月毎の見直しを行い、現状に即した介護計画をチームで作成している。	センター方式による各種アセスメントシート・家族記入の生活歴シートをもとに介護計画を作成している。各ユニットの「予定表」に、入居者個々の介護計画の具体的な内容を記載し、計画に沿ったサービスを実施し記録できるように取り組んでいる。生活状況や心身の状況は、iPadの「チェック表」と記述式の「日記」に記録している。毎月のモニタリングで状況を確認し、定期的には3ヶ月毎に介護計画を見直している。見直しの際は、計画書評価でのモニタリング・センター方式のアセスメントシート(6種類)・ADL表での再アセスメント・リスク予測シートをもとに、カンファレンスを行っている。入居者の状況に応じて、24時間シートや睡眠記録等も活用している。入居者・家族の意向・主治医など関係者の意見を、カンファレンス議事録に記載し計画作成に反映している。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	お一人おひとりの日々の生活の様子をiPadに入力し、記録している。中でも特に必要な事柄は申し送りノートにも記録し、全職員で情報を共有し実践に活かしている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度、しっかり話し合いを持ちご本人様にとって生活しやすい環境を整えるようにしている。看取りや重度化に関しても医療との連携を図り要望に応じている。また、住み慣れた地域で生活をしていけるように努めている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会主催の敬老のお祝いに参加したり、地域の祭りや餅つき大会に参加したりと行事を楽しんでいただいている。散歩や買い物に出た時は近隣の方々と挨拶を交わすといった日常的な交流も持つことができている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望に応じて、かかりつけ医を決定し、受診していただけるよう支援している。定期的にご家族同行で受診されている方には、医師宛に情報提供表を書くなど連携をしっかりと取るようにしている。	入居時に本人・家族の意向を確認し、希望に応じてかかりつけ医を決定し受診支援を行っている。ホームとしては定期的に訪問診療や往診を受けられる体制がある。通院は家族に同行をお願いし、必要に応じて職員が同行している。必要な情報を口頭・ファックス・文書等で提供し、医療機関と連携を図っている。定期的には法人の看護師が訪問し健康管理を行い、必要に応じて、訪問看護・訪問リハビリを利用している。受診結果は、通院記録・往診記録に記録し、iPadにも入力し職員間で情報共有している。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的に来訪する法人内の看護師に適宜相談等を行い対応をとっている。事故報告、入退院情報等も随時連絡している。また個別に訪問看護が入る時には、密に連携を取りその方にとって最も安全安楽なケアが行えるよう、情報共有している。		

グループホームオリンピア篠原

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院にこれまでのご様子等を情報提供し、情報共有している。また、仲の良いご入居者と一緒にお見舞いへ行くなど、早期退院に繋げている。退院前には、医療機関、ご家族とのカンファレンスの場を持ち必要な対応方法等の最終確認を行い、安全に暮らしていただけるよう努めている。	入院時には「入院時情報提供書」等で医療機関に情報提供を行っている。入院中は職員が面会に行き、病院関係者と情報交換し、早期退院に向けて連携を図っている。また、仲の良い入居者と一緒に面会に行く等、精神的な支援にも努めている。必要に応じて退院前カンファレンスに管理者、計画作成担当者、ユニットリーダーが参加したり、電話で状況を聞き、退院後の対応方法等の確認を行っている。退院時には看護サマリーの提供を受けて情報を共有し、退院後に適切な支援が行えるよう取り組んでいる。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期の対応について説明している。その後もその都度状態に合わせて、ご本人・ご家族のご意向を伺うよう随時話し合いを持っている。その上で、必要な医療機関との連携をとり対応し、安楽に過ごして頂けるよう支援を行っている。	「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って、契約時にホームの方針を本人・家族に説明し同意を得ている。重度化を迎えた段階で、主治医からの説明を受け、ホームができることできないことを説明し、家族の意向を確認している。看取り介護の意向があれば、家族・医師・訪問看護師を交えて話し合い、「看取りのケアプラン」に沿って支援している。趣味に合わせて音楽を流す等、その人らしく安楽に過ごせるように努め、状況に合わせて様子をこまめに見に行き記録し、iPadとケア記録で情報共有している。看取りの後には、「デスカンファレンス」を行い、職員のメンタルケアも行っている。「看取りケアについて」の勉強会も実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修を定期的実施し、緊急時の連絡・報告体制を全職員が理解している。安全確保を最優先にし、その後の対応は指示の下に行う事の周知を徹底している。判断を誤らないよう、管理者とリーダーは情報共有を行っている。		

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した消防避難訓練を年2回実施し、それぞれの対応の仕方を身につけている。また地域の自治会との連携を図り、災害発生時にはお互いに協力が得られるよう話し合っている。	年2回、消防保守点検業者立ち合いのもと、入居者も参加して消防避難総合訓練を実施している。(2019年度は4月夜間、10月昼間想定) 避難経路・避難場所・消火器の使用法・火災通報装置等について指導を受け確認し、終了後は「自衛消防訓練結果報告書」と対応パンフレットを回覧し、全職員に周知を図っている。運営推進会議や自治会参加の際に、自然災害時には避難の受け入れができる旨を伝え、地域との協力体制を築いている。各フロアに備蓄(水・食糧)を準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「誇りを持った暮らしを続けるお手伝い」を実践するため「敬語でお話する」「尊厳ある生活のお手伝いをする」という約束事を全職員が理解し、徹底している。	「理念」「3つの約束」に入居者の尊厳保持とプライバシーの確保について明文化し、毎朝入居者と一緒に、また、出勤時に個別にも唱和している。「プライバシーについて」の研修をはじめ、各種研修やカンファレンス時に繰り返し取り上げ、継続的に意識づけすることにより周知徹底している。個人情報保護・守秘義務についても入職時・研修時に周知を図り、書類・記録等は鍵のかかる事務所で保管している。また入居者の写真・映像使用については、入居時に同意を得ている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の下、入居者様に自己決定していただけるよう「依頼形」でのお声かけを徹底している。外出や家事といった日々の活動も、こちらから提案し、ご本人に選択して頂けるように努めている。			

グループホームオリンピア篠原

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「生活の主人公は利用者ご本人です」という理念の基、1日の予定は毎朝話し合って決めるようにしている。お一人おひとりの生活のペースに合わせ、希望に添った支援を心がけている。		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の衣類はご本人様に選んで頂けるようお手伝いさせて頂いている。今まで通りの身だしなみを引継ぎ、その人らしい身だしなみを支援している。またアクセサリなど安全に気をつけながら好みのスタイルが継続できるようお手伝いしている。		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成から食事の準備、片付けまでを入居者の皆様が力を合わせ、料理に取り組んでいる。また、「食事の時間は心が開く時」ということを全職員が理解し、入居者様と一緒に食事をする時間を大切にしている。	入居者も一緒に調理・盛り付け・後片付け等に参加できる広いアイランドキッチンが設置されている。献立は入居者の意見・季節料理・旬の食材・行事食等を探り入れ、法人の栄養士が確認している。食材は業者の配達と入居者との買い物で調達し、朝食には地域のパン屋の好みのパンを日替わりで提供している。入居者の希望や得意を活かして調理に参加し、役割りと喜びを感じてもらえるように支援している。職員も同じ食事で食卓を共にし、家庭的な雰囲気ですべてが楽しめるようにしている。おやつも、入居者と一緒に手作りする機会を多く設けている。個別・グループ・ユニット等で外食・喫茶に出かける機会を設け、時には家族も参加している。外出行事の際にも、外食を楽しんでいる。	
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は入居者様と一緒に食事をするこによって食事、水分量と共に好み等を把握している。体調に合わせたものになるようにし、健康面も考慮している。栄養面は法人内の栄養士にアドバイスを求めている。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	職員は口腔ケアの重要性を理解し、衛生面だけでなく、身だしなみの部分も含め、食後の口腔ケアを実施している。口腔ケア時、口腔内の状態を観察しつつ、これまで通りご本人にさせていただくように支援している。		
43	(20) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のパターン・習慣を把握しご本人の自尊心に配慮し、極力肌着を使用していただけよう工夫している。トイレでの排泄を促し、失敗を減らせるようにケアを行っている。紙パンツ等の使用をできるだけ減らしていく努力をしている。	iPadに記録し、入居者個々の排泄状況・排泄パターン状況の把握に努め、トイレでの排泄、排泄の自立に向けて取り組んでいる。タイミングに合わせた誘導により、可能な限り排泄用品に頼らないケアに努めている。状況の変化があれば、申し送りノートや日記で共有し、必要に応じてカンファレンスで検討し、現状に即したケアや排泄用品の使用ができるよう取り組んでおり、トイレに行きたいと、席を立たれるようになった方もおられる。また、排泄誘導・声かけの際や職員間の伝達時のプライバシーの配慮について、カンファレンスや研修等で周知し、意識づけが定着するよう努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食生活において食事のメニュー、水分量を工夫し予防に努めている。便秘傾向の方は特に、水分摂取が十分に行われるよう注意している。その他、散歩や体操等の運動や入浴でも便秘が解消されるように努めている。		
45	(21) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの習慣や希望に応じて、入浴日は固定せずに入っていたりしている。入浴中は安全に配慮しながら、その方がリラックスし満足を得られるように、ゆったりと入っていただけるよう支援している。	基本的には曜日・時間等を設定せず、入居者個々の習慣・希望・体調に応じて、週2回以上入浴できるよう取り組んでいる。iPadで入浴状況を確認し、入浴を好まない入居者には、声かけ・タイミングを工夫し、必要に応じてカンファレンスで検討している。入居者毎にさら湯にし、個浴で会話や歌を楽しみながら、自身のペースで入浴が楽しめるように努めている。夜間帯入浴・足浴・入浴剤の使用等、可能な限り入居者の希望に応じて個別対応している。	

グループホームオリンピア篠原

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46			○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの体調や、生活リズムを大切に、ホームとしての就寝・起床時間は設けていない。夜間眠りにくい時には眠ることにこだわらず、ご本人のペースで休んでいただけるようにスタッフが一緒に過ごすこともある。		
47			○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方時は毎回処方内容を確認し、変化があった際は内容を記入し、最新のお薬リストで全職員が確認できるようにしている。薬の内容や飲み合わせの相互作用等、可能性のある副作用を理解し、安全な服薬支援に努めている。		
48			○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりのこれまでの生活歴を伺い、ご入居者が中心となって生活を送っていただけよう、家事や様々な事柄を役割分担し、担っていただいている。皆様が自然と助け合い生活を送られている。		
49	(22)		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日々の外出は「出かけた」と仰る時に、その都度外出して頂けるように努めている。また日々の会話の中で出てきた「行きたい場所・馴染みの場所・思い出の場所等」にはご家族に相談、ご協力を得て、思い出に残る外出ができるよう支援している。	入居者個々のその日の希望に沿って、日常的に散歩・買い物・外食・喫茶・美容院等、地域に出かけられるよう外出支援を行っている。こども園・児童館との交流、祭り・イベント等地域への外出、初詣・花見・紅葉狩り等季節の外出、法人内他事業所のイベント参加等、外出を楽しむ機会を多く取り入れている。日々の会話から把握した希望を大切に、動物園・美術館等への外出、温泉への宿泊旅行等を企画し実現している。希望に沿って、家族との外出に職員が同行することもある。	
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	これまで通りの生活をしていただくために、お買い物の際には入居者様に直接支払いをして頂くこともある。またご自身のお財布でお買い物をして頂くこともあり、それぞれの希望や能力に合わせて対応している。		

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、個人の携帯電話やホームの固定電話で直接お話をさせていただいている。年賀状やお手紙のやりとりができるよう支援している。お手紙は書きたい時に直ぐに書いていただけるように準備している。		
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットを一つの家としてとらえ、共用スペースには季節感のある花や写真を飾っている。また、皆様が自由に過ごして頂けるように、状況に合わせて配置換えを行い、ご入居者同士の会話が弾むよう、廊下にはイスを置いたり、アルバムを置いたりしている。	各ユニットの共用スペースは、ゆったりと広く、明るく清潔感があり、居心地よく過ごせる環境である。テーブル席と、適所にソファがあり、思い思いの場所でくつろげるよう配慮されている。アイランドキッチンが設置され、入居者の作品や写真を壁に飾り、ぬいぐるみやアルバムが置かれ、家庭的な雰囲気がある。玄関やリビングに、季節の花や鉢植えを飾り季節感が感じられる。プランターや植物を置くことで、利用者が水やりを行う等生長を楽しめる工夫をしている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方同士がゆっくりとお話をして頂けるよう、リビングから見えにくい場所にもソファを設置したり、自由に居室を訪問して、語り合ったり出来るようにしている。また、リビングにはカラオケやカルタなどお好きなことを楽しんでいただけるよう工夫している。		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで通りの生活を送って頂くため、馴染のある家具をもって来て頂いたり、お好みの家具や物品を使用して頂けるよう、ご家族と相談している。居心地よく安心して暮らせる環境になるようお手伝いをしている。	各居室も明るく広く、清潔感がある。ベッド・クローゼット・洗面台が設置されている。使い慣れたなじみのある箆笥やソファ、絵画や自身の作品、家族写真等を持ち込み、本人と家族と相談しながら、今まで通りの生活を安心して送れるよう環境づくりに配慮している。また身だしなみを大切にしており、愛着のあるネクタイやスカーフ・化粧品等を継続して使用できるよう、安全に配慮しながら見守り支援している。	

グループホームオリンピア篠原

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの状況に応じてお料理等の家事に限らず、趣味や得意な活動ができるように提案したり、促したりし、お一人おひとりが楽しみながら、かつ自立した日々を送って頂けるように努めている。		